

新刊児童図書リスト

(平成 23 年下半期版)

平成 24 年 4 月
広島県立図書館

第 21 号



📖 リストについて

- ・ このリストには、平成 23 年 7 月から同年 12 月までの間に出版された絵本のほか、平成 23 年 1 月から同年 12 月までの間に出版された子ども向けの読み物や青少年向けの読み物を掲載しています。
- ・ これらの図書は、当館が設定したテーマに沿って分類し、配列してあります。もちろん、観点を変えれば、別の分類・配列の仕方もあるでしょう。
- ・ 【 】 の中には、県立図書館の請求記号です。E は絵本、C は知識の絵本を表します。
- ・ このリストで取り上げた本は、全て県立図書館で借りることができます。また、お近くの公共図書館を通して借りることもできますので、御利用ください。

絵本

◆ 動物

『こけこっこー』 林木林／作，西村敏雄／絵，鈴木出版，2011.7【E Ⅷ】

「こけこっこー」とニワトリが鳴くと，森のみんなが目を覚めます。それをうらやましく思ったスズメやハトたちが，ニワトリのまねをして鳴いてみました。

『うきわねこ』 蜂飼耳／ぶん，牧野千穂／え，ブロンズ新社，2011.7【E Ⅷ】

おじいちゃんから，誕生日のプレゼントの浮き輪が届きました。満月の夜，浮き輪を膨らますと，浮き輪は空へ浮かんで…。幻想的な雰囲気漂う絵本です。

『ゴリラとあそんだよ』 やまぎわじゅいち／文，あべ弘士／絵，福音館書店，2011.9【C 4】

忘れ物をした男の子が学校に戻ってみると，目の前に，二匹のゴリラが現れました。小学校1・2年生向けに刊行されているランドセルブックスシリーズの一冊です。

『コウモリとしょかんへいく』 ブライアン・リーズ／作・絵，さいごうようこ／訳，徳間書店，2011.8【E Ⅸ】

コウモリたちが，真夜中の図書館に忍び込んで大はしゃぎします。絵本の読み聞かせの場面では，食い入るように，絵本を見つめています。絵の中には，『かもさんおとおり』等の名場面が描きこまれているので，探してみるのもいいでしょう。

『めっけもののサイ』 シェル・シルヴァスタイン／作，長田弘／訳，BL出版，2011.9【E シ】

『おおきな木』の作者の作品です。1988年に出版された，よしかわみちお／訳『おとくなサイはいかがです？』と読み比べてみると，よいでしょう。

『どうぶつがすき』 パトリック・マクドネル／さく，なかがわちひろ／やく，あすなろ書房，2011.9【E マ】

動物行動学者ジェーン・グドールの子ども時代を描いた伝記絵本です。コールデコット賞オナーブック。

◆ ドキドキ・ワクワク

『ハエのアストリッド』 マリア・ヨンソン／さく，ひだにれいこ／やく，評論社，2011.7【E ヨ】

アストリッドは，元気いっぱいハエの女の子。あるとき，大好きなサラミを食べ過ぎて眠ってしまったアストリッドは，そのまま冷蔵庫に入れられてしまいます。

『くまさんのまほうのえんぴつ』 アンソニー・ブラウンとこどもたち／さく，さくまゆみこ／やく，BL出版，2011.10【E ㊦】

くまさんが，魔法の鉛筆でいろいろなことを乗り越えていきます。著者アンソニー・ブラウンが，コンテストに応募した子どもたちと一緒に作った絵本です。

『アートとマックス』デイビッド・ウィーズナー／作，江國香織／訳，BL出版，2011.8【E ウ】

アーサーが絵を描いていると，マックスも絵を描きたいとやってきました。でも，何を描けばいいか悩んでいると…。創作することのおもしろさを，大胆かつ繊細に描いた作品です。

『つぎのかたどうぞ』飯野和好／作，小学館，2011.7【E イ】

「はたけやこうんさいいちざ」が，座員を募集しました。応募してきたのは，粘土，氷，栗きんとんなど，個性的な面々です。

『どこいったん』ジョン・クラッセン／作，長谷川義史／訳，クレヨンハウス，2011.12【E ク】

クマが赤い帽子をなくしました。いろいろな動物に聞いてみませんが，「知らない。」と言います。

◆ 食べ物

『いもいもほりほり』西村敏雄／作，講談社，2011.9【E ニ】

ブタとネズミが，いも掘りに出かけました。「いもいもほりほり いもほりほり」。言葉のリズムが楽しい絵本です。

『やきいもするぞ』おくはらゆめ／作，ゴブリン書房，2011.10【E ㍑】

森の仲間たちで焼きいもをした後は，みんなでおなら大会が始まりました。いろいろなおならの競演です。

『ゆでたまごひめ』荻田澄子／さく，山村浩二／え，教育画劇，2011.10【E カ】

お弁当箱のお城に，かわいい「ゆでたまごひめ」が住んでいました。ところが，外に遊びに出たとき，サンドイッチたちに連れ去られてしまいます。

◆ 冬

『はろるどのクリスマス』クロケット・ジョンソン／作，小宮由／訳，文化学園文化出版局，2011.11【E シ】

「はろるど」が，紫色のクレヨンでお絵描きをしながら，クリスマスの準備をしていきます。はろるどシリーズの一冊です。

『トントントンをまちましょう』あまんきみこ／作，鎌田暢子／絵，ひさかたチャイルド，2011.12【E ア】

雪が降り始めると，お母さんが大急ぎで，鍋いっぱい甘酒を作りました。そこへ「トントントン」と玄関を叩く音がして，小さなお客さんがやってきました。



『ピートのスケートレース：第二次世界大戦下のオランダで』ルイーズ・ボーデン／作，ニキ・ダリー／絵，ふなとよし子／訳，福音館書店，2011.11【E ㊦】

ピートは、スケートに夢中な 10 歳の少年です。あるとき、身の危険が迫った知り合いの子どもを、国境を越えてベルギーに送り届けるという仕事が、ピートに任されました。

◆ お母さん

『キジのかあさん』クオン ジョンセン／文，キム セヒョン／絵，ピョン キジャ／訳，平凡社，2011.8【E ㊧】

山火事の中、自分の体で九羽のヒナを守ったキジのお母さんのお話です。

『ママ！』キム・フォップス・オーカソン／作，高島那生／絵，枇谷玲子／訳，ひさかたチャイルド，2011.11【E ㊨】

食いしん坊で太っているママが恥ずかしいぼくは、隣に引っ越してきたきれいな女の人の子どもになることにします。でも、なぜだか、素直に「ママ」と呼べないのです。

『だめだめママだめ！』天野慶／文，はまのゆか／絵，ほるぷ出版，2011.10【E ㊩】

ある朝目覚めると、ママが、部屋を荒れ放題に散らかし、好き放題に食べたり飲んだり…。おまけに、変な格好をして出かけようとしています。

◆ 不思議

『ぶつくさモンクターレさん』サトシン／作，西村敏雄／絵，PHP 研究所，2011.10【E ㊪】

何にでも文句を垂れる「モンクターレ」さんは、散歩中、曲がった道を見ては文句を言い、ぼかぼかいい天気にも文句を言い…。

『ガンジーさん』長谷川義史／著，イースト・プレス，2011.9【E ㊫】

ガンジーさんは、「にんげんはカトリセンコー。」という歌を歌います。不思議なインパクトのある絵本です。

◆ 科学

『きのこ：ふわり胞子の舞』埴沙萌／写真・文，ポプラ社，2011.9【C 4】

きのこは、胞子を出しています。蛍のように光る「ヤコウタケ」からは、光る胞子が出ています。シイタケやシメジの胞子を見る方法も紹介しています。

『オランウータンに会いに行く』横塚眞己人／[作]，偕成社，2011.7【C 4】

オランウータンに出会うことが、子どもの頃からの夢だという作者が、ボルネオ島の熱帯雨林に行きます。作者が木に登って撮った写真で、構成された絵本です。

『ちいさな鳥の地球たび』藤原幸一／写真・文，岩崎書店，2011.8【E 7】

「キョクアジサシ」という白い鳥は，夏の北極で子育てをして，夏が終わると，南極まで飛んでいきます。地球上で最も長い距離を飛ぶ渡り鳥だということです。

◆ 言葉

『へんしんかいじゅう』あきやまただし／作・絵，金の星社，2011.11【E 7】

へんしんシリーズの第11弾です。言葉を繰り返すと，いろいろな怪獣に変身します。

『あるひこねこね』高島那生／[作]，長崎出版，2011.7【E 7】

ある星に宇宙人がやってきて，何かを「こねこねこねこねこね」…。一体，何を作っているのでしょうか。

『どんどこどん』和歌山静子／作，福音館書店，2011.10【E 7】

土の中で，「どんどこどん」と野菜が育っていきます。地中深くに伸びた野菜の姿は，迫力があります。

『でんぐりでんぐりでんぐりこ』長野ヒデ子／作，山口マオ／絵，校成出版社，2011.12【E 7】

猫や犬，お相撲さんやヤカンなど，いろいろなものが「でんぐりこ」をします。ヒデ子さんのうたあそびえほんシリーズです。

『おおきいちいさい』元永定正／さく，福音館書店，2011.10【E 7】

さまざまな「おおきい」「ちいさい」の繰り返しが楽しい，赤ちゃん向けの絵本です。

『おはなししまししょう』谷川俊太郎／ぶん，元永定正／え，福音館書店，2011.9【E 7】

『もこもこもこ』のコンビの作品です。

◆ 遊び

『いちにちのりもの』ふくべあきひろ／さく，かわしまななえ／え，PHP 研究所，2011.12【E 7】

男の子が，ショベルカーや新幹線などの乗り物に変身します。でも，ショベルカーになってみると歯が痛いし，ロープウェイに変身してみると，手がしびれてきました。

『ぼくはブルドーザー！』三浦太郎／作，こぐま社，2011.11【E 7】

働く車の好きな男の子が，砂場で大きなお城を作ります。泥だらけになりながら，ブルドーザーやショベルカーのように，砂を集めたり掘ったり…。

『おうさまジャックとドラゴン』ピーター・ベントリー／ぶん，ヘレン・オクセンバリー／え，灰島かり／やく，岩崎書店，2011.7【E へ】

三人の幼い子どもたちが、「おうさまジャック」と「しょうぐんザック」と「チュッパおうじ」になりきって、巨大なドラゴンと戦います。子どもならではの世界を、どっぷり楽しむことができる絵本です。

◆ 大きい

『ぞうさんのおとしあな』高島純／作，ポプラ社，2011.8【E 夕】

いたずら好きのぞうさんが大きな落とし穴を作りましたが、誰も穴に落ちません。ところが、大雨が降って、ブタの親子がやってくると…。

『おおきなかぼちゃ』エリカ・シルバーマン／作，S.D. シンドラー／絵，おびかゆうこ／訳，主婦の友社，2011.9【E シ】

魔女が大きく育ったかぼちゃを収穫しようと引っ張りますが、びくともしません。そこへ、幽霊に吸血鬼、ミイラ、コウモリがやってきて…。ロシア民話『おおきなかぶ』をモチーフにした作品です。

『おおきなわんぱくぼうや』ケビン・ホークス／作，尾高薫／訳，ほるぷ出版，2011.8【E 木】

冬いちばんの大雪の日に、並外れて大きな赤ん坊トディが生まれました。オムツは、クレーン車で脱がして、消防車のホースでお尻を洗って…。普通の赤ん坊とトディとの、スケールの大きさの違いがおもしろい絵本です。

◆ 気持ち

『てるちゃんのかお』藤井輝明／文，亀澤裕也／絵，金の星社，2011.7【E 夕】

海綿状血管腫のため、顔に大きなこぶがある作者の、子ども時代のお話です。個性を尊重し、育て上げた、母親の愛情が感じられる作品です。

『エロイサーと虫たち』ハイロ・ブイトラゴ／文，ラファエル・ジョクテング／絵，宇野和美／訳，さ・え・ら書房，2011.9【E 夕】

お父さんと二人で遠い町に引っ越してきた女の子は、心細くて、不安で、まるで自分が虫になったように感じていました。

『パパと怒り鬼：話してごらん、だれかに』グロー・ダーレ／作，スヴァイン・ニーフース／絵，大島かおり／共訳，青木順子／共訳，ひさかたチャイルド，2011.8【E 夕】

パパは突然「怒り鬼」になって、家族に暴力を振るいます。そして、「もう二度とらんぼうしない。約束するよ。」と、言うのです。ドメスティックバイオレンスを子どもの視点から描いた、ノルウェーの絵本です。

『じゃがいも畑』カレン・ヘス／文，ウエンディ・ワトソン／絵，石井睦美／訳，光村教育図書，2011.8【E へ】

食べる物もなく、貧しい生活をしている母一人と三人の子どもたち。あるとき、母親が仕事に行っている間に、子どもたちは、よその家のじゃがいも畑に忍び込みました。

◆ 世界

『バートルのころのはな』イチンノロブ・ガンバートル／作，バーサンスレン・ボロルマー／絵，津田紀子／訳，小学館，2011.11【E か】

「ころのはな」の朝露を集めてお茶を飲むと長生きができるという話を聞いたバートルは、バケツを持って森に向かいました。モンゴルの伝説が基になったお話です。

『景福宮(キョンボックン)：朝鮮王朝の王宮』イ スンウォン／作，おおたけきよみ／訳，講談社，2011.11【C 5】

「キョンボックン」は、韓国のソウルにある王宮です。柔らかいタッチで緻密に描いた、美しい絵本です。

『ハナンのヒツジが生まれたよ』井上夕香／文，小林豊／絵，小学館，2011.9【C 3】

厳しい自然の中で生きる、ヨルダンの遊牧民の少女の暮らしが描かれています。

『おじいちゃんの手』マーガレット・H. メイソン／文，フロイド・クーパー／絵，もりうちすみこ／訳，光村教育図書，2011.7【E け】

昔、おじいちゃんは、黒人だからという理由で、働いていたパン工場で、パン生地に触ることが許されませんでした。自らの経験を、孫に語り伝えます。

児童図書

◆ 子どもの気持ち

『レンタルロボット』滝井幸代／作，三木謙次／絵，学研教育出版，2011.9【913 ㍻】

弟が欲しいと思っていた小学校四年生の健太は、おこづかいをはたいて、弟ロボットを借りることにしました。「弟」のつとむは、パパやママにもかわいがられて、楽しそうです。そのうち、つとむは、おやつのパテトチップスを全部食べたり、健太が、家でママに甘えていることをばらしたりするようになります。腹を立てた健太は…。

『すすめ！ドクきのご団』村上しいこ／作，中川洋典／絵，文研出版，2011.11【913 ㍷】

小学校四年生の男子四人組「ドクきのご団」。給食を食べている人を笑わせたり、下駄箱に入っているくつを、全部左右反対に置き換えたりと、いつもいたずらばかりしています。

あるとき、メンバーの守が、「ドクきのご団」を抜きたいと言い出し、ぼくは、おもしろくありません。

◆ ドキドキ・ワクワク

『ミルクマンという名の馬』ヒルケ・ローゼンボーム／作，木本栄／訳，岩波書店，2011.3
【943 ㍻】

ある日，少年ヘルマンの家に，一頭の馬が迷い込んできました。名前は，「ミルクマン」というらしいのですが，家中にフンをして，大変です。ヘルマンは，パパやママに見つからないようにと，馬を学校に連れて行くことにしました。

『チビ虫マービンは，天才画家！』エリース・ブローチ／作，ケリー・マーフィー／絵，伊藤菜摘子／訳，偕成社，2011.3 【933 ㍺】

11歳のジェームズと，甲虫のマービンとの友情を描いた作品。ジェームズが誕生日プレゼントにもらったペンとインクを使って，甲虫のマービンは，窓の外景色を見ながら，細い足で絵を描きました。それは，写真のような出来栄で，しかも，画家のデューラーそっくりの絵だったことから，二人は，大変な事件に巻き込まれてしまうことになるのでした。

◆ 不思議

『<天才フレディ>と幽霊の旅』シド・フライシュマン／作，野沢佳織／訳，徳間書店，2011.3
【933 ㍺】

腹話術士のフレディは，幽霊となったユダヤ人の少年アモスから，体を貸してほしいと頼まれます。アモスは，この世でやり残したことがあるのだと言うのです。フレディは，口にガムテープを貼っても，アモスが体の中で好き勝手なことをしゃべるので，腹話術の舞台は，大人気です。

一方，アモスがやり遂げたかったこととは？

『クラーケンの島』エヴァ・イボットソン／著，三辺律子／訳，偕成社，2011.10 【933 ㍺】

人々から忘れ去られた島に，傷ついた動物や人魚たちを介抱する三人のおばさんがいました。その島には，伝説の生き物「クラーケン」もやってきます。クラーケンの声を聞くと，人は皆，人を害する気持ちがなくなるといいます。

おばさんたちは，自分たちが年老いていくことに危機感を覚え，若くて役に立つ子どもを，町にさらいに行くことにしました。

◆ 家族って何？

『走れ！マズワラ』グザヴィエ＝ローラン・プティ／作，浜辺貴絵／訳，PHP 研究所，2011.9
【953 ㍺】

マズワラは，いつもアフリカの大地を，ものすごい速さで走っていました。マズワラには，生まれつき心臓の弱い娘がいましたが，手術をするお金はありません。そんな時，マズワラは，マラソン大会で優勝すれば，多額の賞金がもらえることを知ります。

『ミンのあたらしい名前』ジーン・リトル／著，田中奈津子／訳，講談社，2011.2【933 リ】

ミンは，小さい頃からいろいろな里親の家を転々としてきました。つらいことがあるたび，ミンは，自分のおさげ髪を握りしめては，耐えてきました。

ある日，ミンは，ひよんなことから，以前入院した時に親切にしてくれたジェシカに引き取られることとなります。

◆ 道

『希望の筆：ダウン症の書家・金澤翔子物語』丘修三／文，佼成出版社，2011.12【728 オ】

誰にでも心を開き，相手を喜ばせることが大好きな翔子さん。書道家である母親と，小さい頃から一緒に練習をしてきました。今では，国宝「風神雷神図」と並べて書が展示されたり，NHKの大河ドラマ「平清盛」の題字を書いたり大活躍です。しかし，翔子さんには，誰かに勝とうとか，人よりもうまくなろうといった欲はないのだと母親の泰子さんは言います。

『森がささやいている：木工家が見つめる木の命』池田まき子／著，岩崎書店，2011.12【583 イ】

輸入された木で作られた家具は，何年かすると表面がはがれてしまい，簡単に捨てられていきます。それを見た岩手県岩泉町の工藤さんは，町の広葉樹を使って，家具づくりを始めることにしました。会社のモットーは，三百年生きた木を，三百年使える家具にすることです。

『魔法の泉への道』リンダ・スー・パーク／著，金利光／訳，あすなろ書房，2011.11【933 ハ】

1985年，内戦で故郷の村を追われた少年サルヴァは，家族に会うこともできず，ひたすら安全な場所を求めて歩き続けました。一方，2008年，スーダン南部に住む少女ナーヤは，遠くの湖まで歩いて水汲みに行き帰ってくるだけで，一日が終わる生活を送っていました。ある日，ナーヤの妹がお腹を壊してしまいます。それは，いつも汚い水を飲んでいるせいでした。

NPO「スーダンに水を」のプロジェクトを立ち上げたサルヴァ・ドットの実体験を元に書かれた作品です。

青少年向け図書

◆ 部活

『鉄のしぶきがはねる』まはら三桃／著，講談社，2011.2【F マミ111】

工業高校電子機械科唯一の女子である三郷心は，個性豊かな，三人の男子部員とともに「高校生ものづくりコンテスト」の出場を目指します。物作りを真剣に行う楽しさや，男性社会に挑戦する女性の格好良さを描いている作品です。

『くちびるに歌を』中田永一／著，小学館，2011.11【F ㊦111】

長崎県五島列島にある中学校の合唱部のお話です。不真面目な男子部員と、それをいさめる女子部員が対立してしまいます。果たして、合唱部は1つにまとまることができるのでしょうか。

◆ 「強さ」を求めて

『どこからも彼方にある国』アーシュラ・K. ル=グィン／著，中村浩美／訳，あかね書房，2011.2【933.7 ㊦111】

17歳のオーウェンは、本当の自分を誰にも理解してもらえないという閉塞感を抱えて、毎日を送っていました。そんなある日、同級生のナタリーと出会い、二人は、互いにとってかけがえのない存在になっていきます。

思春期特有のいらだちや焦り、将来に対する不安、性への関心など、微妙な心の変化を、見事に描いた作品です。

『大盛りワックス虫ボトル』魚住直子／[著]，講談社，2011.3【913 ㊦】

「存在感が薄い」江藤公平は、ある日、目の前に現れた不思議な生き物「豆糸男」の「1000回、笑わせろよーん」という要求を果たすため、お笑いトリオを結成することになります。「絶対無理」なことなんて、この世にはないのかもしれない、という気がしてくる一冊です。

『オン・ザ・ライン』朽木祥／著，小学館，2011.7【913 ㊦】

高校の硬式庭球部に入部し、テニス漬^{かん}けの毎日を送る侃ですが、突然起きたある事故をきっかけに、親友への尊敬や嫉妬、自分を責める気持ちなど、様々な感情にもがき苦しむことになります。重いテーマを扱いながらも、瀬戸内の風景や魅力的な人物を描くことによって、希望を感じさせる作品となっています。

『エリザベス女王のお針子：裏切りの麗しきマント』ケイト・ペニントン／作，柳井薫／訳，徳間書店，2011.8【933 ㊦】

シドニー卿のお針子のメアリーは、ある日、エリザベス女王暗殺計画を偶然知ってしまいます。その後、女王のお針子となったメアリーは、女王を守ろうと一人で奔走するのですが…。

仕事に誇りを持ちながら、たくましく、自分の意思を持って生きる少女の姿が心を打つ作品です。

